

果樹の省力化・低コスト生産の取組

株式会社岡山フルーツ農園（岡山市北区本町10-22本町ビル2F）
TEL：086-224-2273 / URL：https://okafuru.com/



◀ 岡山の魅力発信 ▶

HPはこちら▶



経営概要

経営面積	ぶどう 7 ha、いちご 1.2ha(生果0.5ha、苗場0.7ha)、露地野菜0.5ha
主な業務	果樹・野菜生産、観光農園・直売所運営、古民家カフェ運営
労働力	正社員 7 名、パート・アルバイト30名、施設外就労作業委託10名（B型事業所から）
取組の経緯	・平成18年に岡山大学農学部卒業後、研修や新規就農制度を受けずにぶどう農家として就農。 ・平成22年に株式会社岡山フルーツ農園を設立。平成24年に観光いちご園をオープン。 ・平成28年には農産物直売所「とれたて岡山産直マルシェ」と観光ぶどう園をオープンし、令和5年に古民家カフェをオープンするなど生産から販売までの体制を構築。

取材年月日：令和 6 年12月19日



とれたて岡山産直マルシェinさいだいじ



いちご栽培の様子



古民家カフェ
Hanare



取組内容

ぶどうの栽培	・ぶどう栽培では「シャインマスカット」「オーロラブラック」等を栽培しており、用途別（贈答用、家庭用、加工用）に栽培方法を分けることで労力を軽減。 ・特に家庭用、加工用のぶどう需要に焦点を当て、芽かきや花穂の整形の回数を減らし、摘房や間引きなど「見た目」に係る工程を贈答用と差別化し作業を省力化。 ・一般的な短梢栽培に比べ、同社の長梢栽培では芽かきから出荷までの管理時間を家庭用で46%、加工用で90%近く削減（同社調べ）。
イチゴの栽培	・「皆足姫（みなたるひめ）」の生産に注力しており、栽培マニュアルを作成して提携農家に共有し、生産している。集荷後、外部のパックセンターでサイズ等をチェックし出荷することでブランド化を図る。 ・品質や出荷量の安定のため、経験豊富な専従スタッフが提携農家を定期的に巡回し栽培をサポート。 ・指導を行った提携農家のいちごを同社の直売所で販売することで、農家の良品率の向上と直売所の取扱量の増加につなげ、相互にメリットのある取組となっている。
自力施工と低価格ハウスの開発	・資材費を抑えたハウスを独自施工し工期を短くして建設コストを削減。 ・マニュアルプレッダー等の農機が乗り入れられるハウス設計により大幅に作業性を向上。 ・ぶどうハウスは、強風を受けるとフィルムが破れる設計にすることで災害時のリスクとコストを低減。



今後の展望

Harefuru Kefuru（ハレフル ケフル）の経営理念の基、国産果実で日常的に果物を食べられる食生活の実現を目指す。「いちご王国」の実現のため、メガ団地構想を進め、栽培指導等により5 haのいちご団地を作っていきたい。耕作放棄地の活用と省力化栽培によって面積拡大し、中山間地で土地利用型のぶどう栽培を展開していく。